

「第11回田園自然再生活動コンクール」受賞団体の活動の概要

＜農村振興局長賞＞ — 農業・農村振興、地域づくりに向けた取組 —

まるやませんまいだほぞんかい
丸山千枚田保存会（三重県 熊野市）

本地域は、紀伊半島南部の山間地にあり、交通アクセスの点から不利な地域に位置しています。本地区は、地域が一体となり耕作放棄された棚田の復田に取り組み、棚田のオーナー制度による都市住民との交流、企業や大学と連携した農作業へのサポーター制度など多様な活動を展開し、棚田を活用した農村環境の保全・再生活動の先進地区となっています。また、熊野古道が世界遺産に認定されたことをきっかけとして、「虫おくり」（8月）や「大年まつり」（2月）などの伝統行事を復活させるなど、農村振興を図る取組が優れています。



＜自然環境局長賞＞ — 自然生態系の保全・再生に向けた取組 —

たのはまつしまやまねこきょうせいのうぎょうじつこういんかい
田ノ浜ツシマヤマネコ共生農業実行委員会（長崎県 対馬市）

対馬市北部の上島に位置する田ノ浜地区は、現在8戸の小さな集落であり、子供もいない程過疎化が進行した限界集落となっています。一方、当地区はツシマヤマネコの拠点生息地域でもあり、ツシマヤマネコ以外にも希少な野生動物が生息し、島内でも豊かな自然が残っています。減化学肥料・減農薬などの「自然環境にやさしい米づくり」に取り組むことで、ツシマヤマネコが生息できる豊かな自然環境を保全し、末永く後世に伝えることを目指しています。また、将来のツシマヤマネコの保護活動の担い手となる地域の児童を対象に、「田んぼの学校」を開催するなど、自然生態系保全に向けた取組が優れています。



<復興奨励賞> —地域の復興に向けた取組—

3. 11 きたかみち いきのうぎょうふっこうかいぎ北上地域農業復興会議 (宮城県 石巻市)

北上地域は、東日本大震災の被災地で、被災した農地のほ場整備を進める中で環境との調和への配慮に取り組んでいます。農村環境の再生を目指し、海水で塩分の濃度が上がった農地や水路で生きもの調査や魚道の設置を地域の農家が行っており、この取組を通じて農家同士がつながっています。また、被災状況把握のための現地視察を全国から受け入れ勉強会を開催することで、都市農村交流を図るとともに、復活した地場産品の販路拡大に貢献するなど、地域の復興に向けた取組が優れています。



<子どもと生きもの賞> —子供たちの環境教育への取組—

せせらぎの郷 せせらぎの郷 (滋賀県 野洲市)

自然豊かな水田環境を取り戻すため、地域ぐるみで生物多様性の保全に配慮した農業「魚のゆりかご水田プロジェクト」に取り組んでいます。水路へ階段状の板堰を配置する水田魚道を設置し、琵琶湖から魚の移動を可能としました。また、こうした活動を核として、「生きもの観察会」、「農業体験」や「田んぼについて学び・食べる体験学習」など子どもたちを対象に体験事業を実施し、「米・湖魚などの伝統食や伝統文化」を次世代へ継承する取組を地域全体で進めるなど、環境教育の取組が優れています。



＜地域資源活用賞＞ － 地域の環境資源を活用した取組 －

あわじひがしうら いけ さとうみこうりゆうほぜんきょうぎかい
淡路東浦ため池・里海交流保全協議会（兵庫県 淡路市）

農業者と漁業者が協働で行う、ため池のかいぼり作業を通じて、ため池の適正管理と生態系保全活動に取り組んでいます。また、かいぼり作業に併せて、魚とり作業による外来種対策により生態系の保全に努めるとともに、小学生を中心にため池教室などのイベントを開催しています。これらの取組は、漁業者、ため池管理者及び周辺住民と連携し一体で行うことで、豊かな二次的自然の持続的な保全を図るなど、地域の環境資源を活用した取組みが優れています。



＜オーライ！ニッポン賞＞ － 都市と農村の共生・対流によって実施している取組 －

きたしょうちゅうおうたなだてんねんまいせいさんくみあい
北庄中央棚田天然米生産組合（岡山県 久米南町）

耕作放棄された棚田を再生し農村景観を癒しの里として創成するため、地域や都市住民が協働で棚田管理作業を行うとともに、消費者の食への安心・安全の関心の高まりを踏まえた棚田で有機栽培米作りに取り組むことで、都市農村交流による農家所得の向上につながっています。これらの取組を通じて農家にヤル気を奮起させ、地域の活性化に貢献しています。さらに、周辺の集落も巻き込んだ「棚田保全」と「生産維持」の取組へと拡大するなど、地域活性化への取組が優れています。



平成 25 年度「田園自然再生活動コンクール」受賞団体位置図

